
死んで花咲く勇者かな

楊二郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死んで花咲く勇者かな

【Nコード】

N7859Y

【作者名】

楊二郎

【あらすじ】

のび太的存在としてご町内でも有名な『僕』は、いじめっことの決闘中、打ちどころが悪くそのまま死んでしまう。だが、偶然にも蘇生した『僕』は、気づかぬままに召喚された異世界で、勇者に祭り上げられてしまう。そして、そんな映画版の『僕』を底上げする為に用意されていたのは、世界の「バグ」を利用したとんでもないLVUPシステムだったのである。

序

トン。

「えっ？」

突然の、浮遊感。

僕は、宙ちゅうに浮いていた。

それは世界にとっては一瞬のことだったけれど、僕にとってはとても長くて…、

周りに広がる、色のない山々も、

僕を囲んでいた山賊達の驚いた顔も、

僕を崖から突き落とした、その人の姿も、目にしっかりと焼き付いてしまつて。

胸でつかつ。

その異常に隆起したおっぱいをガン見しながら、

僕の体は、自由落下を始めた。

「。。。」

そこからは、よく覚えていない。

僕は落下の恐怖で、気を失ってしまったらしい。

そして当たり前だけど、

崖の下に落ちて、

死んだ。

それが、異世界召喚された、一日目のことである。

0 目 目

中学3年、卒業式。

気の早い桜が咲き始めた、3月10日。

僕は太の字に倒されていた。

「うつ……」

ほほが、痛い。

頭がふらふらする。

僕の頭は、ちゃんとついているのか…？

「てめえ、火野^{ひの}…」

凄みのある声が遠くから、落ちてくる。

立つんだ

「うつ、くつ……」

サボろうとする体を持ち上げて、僕は立ちあがる。

対峙する先には、茶髪の大柄な同級生。

たった今、僕を殴り飛ばした相手。

僕を『いじめ』の対象としてきた、不良^{ふりやう}だ。

「野火^{のび}の癖に俺に逆らおうなんて、生意気なんだよ。」

いつものように、威圧的に僕を睨みながら、そいつはやってくる。

いつもの僕ならここで目をつぶって、

嵐が過ぎ去るのを黙って、耐えるだけだった。

それは昨日までの僕。

目をそらしちゃ、だめだ。

僕は大丈夫だって、

僕は一人でも大丈夫だって、

それを、証明するために僕は、ここにいる。

青い僕の猫に、それを示すために。

「高田^{たかだ}…、たかだー！ー！！」

叫ぶ。

目を、開くんだ。

僕は、お前には負けないって。

「…うるせえ。」

ズンっ。

「うつ…、つぶっ…」

腹を、突き上げられる。

「…てめえは俺のパシリなんだよ。これからもな。」

支配の主張。

僕の答えは…。

「……だっ」

「…あん？」

コンッ。

僕の拳が、高田の肩に当たる。

「……いやだ。」

「…てめえ。」

その後は、ひどかった。

こんなに殴られたのは、初めてで。

痛くて、痛くて、痛くて、痛くて…

でも、胸の真ん中は涼しくて。

「なんで、笑ってやがる。」

だって、僕はすでに、勝っているんだ。

卒業式の後、校舎裏にいじめっことを呼び出して、『いやだ』と主張できた。

だから、他の人がなんと言おうと、

この決闘は、僕の勝ちなんだ。

「ふっ、へっ、ぶっへ、ぐぶっへ……。」

ホントは大声で笑いたいののに、肺が痛くて、へんな笑い声になる。

ゴッ。

「……あっ。」

今度こそ、僕の頭が、飛んでしまった。

それを追うするように体が、ゴロゴロと転がり、視界が灰色になる。

「……!……!……!……!」

どこかで誰かの叫び声。

体が、冷たい。

おかしいな、さっきまであんなに熱かったのに。

それに、ひどく眠い……。

ああ、寝てしまえば楽なんだろうか……。

どうせ明日から、『あの人』はいないんだから……。

違う。

違うんだ。

僕は『あの人』がいないから、強くなろうと……。

ここで逝っては……。

だれが……。

「!？」

突然、視界に色が戻る。

その色は……、金色!?

「あつ……、えっ？」

僕の胸の上に、金色の球が浮いている。

そして球の中心には、僕のお守りが、クルクルと回っている。

「……これ。」

手を伸ばそうとしたけど、体はすこしも動かない。

やがて、その金色の球は大きくなり…、

「火野————！！」

僕は光に飲み込まれた。

……………。

「おい、%%\$&)」。

「なんだ、<+^、^+?」。

「こつちにまた異物が流れ込んだぞ。」

「そうか。だが人間がやったことだ、私は関与せん。」

「またそれか。お前が作ったものの責任くらい、取ったらどうだ。」

「そう、うるさいことを言うな。\$>@おこつてやるから。」

「ちつ。じゃあ、それで手を打っておくか。」

「しかし、どうも中間点に死体が残ったようだな。」

「…世界横断中に死ぬなんて、器用な奴だな。」

「そつちに飛ばしとくぞ。」

「なっ、ちよつとまで。」

「飛ばした。」

「おい！なに勝手にこつちに押しつけてんだよ。」

「魂もそつちにあるんだ、これが自然だろう。…おやつ、きれいに入った。」

「うお、マジか。…きれいに魂と重なってやがる。ありゃあ、生き

返ったな。』

『ふう。では、そういうことでよろしく。』

『おい。\$>@はどうした。』

『くっ、覚えていたか。しょうがない、いつものところでよいかな？』

『ああ、いいぜ。』

.....。

てってててつ、てんて〜ん

火野 壮太はレベルがあがった！

火野 壮太のちからが9あがった！

火野 壮太のたいりよくが5あがった！

火野 壮太のすばやさが4あがった！

火野 壮太のさいだいHPが25あがった！

火野 壮太は「ふあいあぼると」をおぼえた！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7859y/>

死んで花咲く勇者かな

2011年11月23日13時45分発行